

2019年度

日立の学校教育

未来を拓くづくり



日 立 市 教 育 委 員 会

目 次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 本県教育の目標、日立市の学校教育目標、この冊子の意図・活用の仕方 | 1 |
| I 日立市の目指す教育 | |
| ・日立市の学校教育目標 | 2 |
| ・日立市の教育の基本理念 | 3 |
| II 2019年度日立の学校教育三本の矢（重点事項） | |
| 1 学力向上 | 4 |
| 2 いじめ・不登校対策 | 5 |
| 3 新学習指導要領全面実施に向けて | |
| III 学力向上 | |
| 1 授業の充実に関すること | 6 |
| IV いじめ・不登校対策 | |
| 1 重点項目1 生徒指導の機能を生かした授業づくり、学級づくり | 8 |
| 2 重点項目2 いじめの早期発見、早期対応の徹底 | 9 |
| 3 重点項目3 不登校を生まない学級、学校づくりの推進と早期対応 | 10 |
| 4 重点項目4 虐待への適切な対応 | 11 |
| ・いじめ、虐待の早期発見のためのチェックリスト | 12 |
| V 新学習指導要領全面実施に向けて | |
| 1 私の授業ブラッシュアップ | 13 |
| 2 特別の教科 道徳 | 14 |
| 3 英語教育の推進 | 17 |
| 4 プログラミング的思考を育む教育の推進 | 21 |
| 5 探究のプロセスを重視した総合的な学習の時間 | 23 |
| 6 特別活動の充実 | 24 |
| 7 幼児教育 | 25 |
| VI いいとこ発見 夢づくり推進事業 | |
| 1 いいとこ発見夢づくりとは | 28 |
| 2 いいとこ発見夢づくりは全ての教育活動につながります | 28 |
| 3 未来パスポートについて | 29 |
| VII 各種教育の指導の重点 | 30 |
| ・学校図書館教育 ・人権教育 ・福祉教育 ・体力の向上 | |
| ・学校保健教育 ・学校安全教育 ・食に関する指導 | |
| ・キャリア教育 ・国際教育 ・情報教育 ・環境教育 ・ESD | |
| VIII 特別支援教育 | 33 |
| IX 教職員の研修 | 36 |
| X 安全・安心な学習環境の充実 | |
| 1 緊急時の対応 | 38 |
| 2 保護者との信頼関係づくり | 38 |
| 3 緊急時対応の心構え | 39 |
| 4 防災教育 | 40 |
| 5 学校における通学路の安全確保 | 41 |
| XI 資料 | |
| 1 主体的・対話的で深い学びの実現 | 42 |
| 2 社会に開かれた教育課程 | 43 |
| 3 より良い学習評価のために（指導と評価の一体化） | 44 |
| 4 園・学校課題研究の推進 | 45 |
| 5 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の概要 | 46 |
| 6 年間単元一覧表（国語、社会、算数・数学、理科、外国語） | 49 |
| 7 日立市学校訪問 | 54 |
| 8 「日立市いじめ防止基本方針（H30.5改定）」概要版 | 55 |
| 9 長欠児童生徒の推移と体力運動能力調査平均値の比較 | 56 |
| 10 学校運営協議会制度の導入に向けて | 57 |
| 11 部活動について | 58 |
| 12 日立市教育研究所 | 60 |
| 13 2019年度日立市の主な事業 | 62 |
| 14 日立市学校教育のあゆみ | 67 |
| ・「日立」の地名と市章について | 68 |
| ・日立市民の歌 | 69 |

II 2019年度日立の学校教育三本の矢(重点事項)

すべての教員が今、目の前にいる子どもたちの10年後、20年後の姿を思い浮かべ、新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえながら、指導に当たる必要があります。

今後、本市の学校教育において最優先で取り組んでいかなければならない事項として、「1 学力向上」、「2 いじめ・不登校対策」、「3 新学習指導要領全面実施に向けて」という三つの重点を定めました。

各校においては、下記に示した事項について、計画的に、組織的に対応し、改善に努めるようお願いいたします。

【1 学力向上 P6～P7】

すべての児童生徒に確かな学力を保証します

すべての学校、すべての授業で、
**1時間の「学習課題」と「まとめ」が
明確な授業（1時間完結型授業）**
を実現します。

児童生徒の実態を踏まえた上で、
目標を達成した児童生徒の具体的な姿を明
らかにし、「**ゴールから考える授業づくり**」
を実践します。

※日立では、どこへ行っても授業の基本的な
組立は同じです。

III 学力向上

1 授業の充実に関すること

すべての児童生徒に確かな学力を保証するために、すべての授業を「学習課題」と「まとめ」が**明確な授業（1時間完結型授業）**に質を高めていく必要があります。

そのためには、児童生徒の実態を踏まえた上で、目標を達成した児童生徒の具体的な姿を明らかにし、その姿を実現するために必要な学習課題や発問を準備するなど「**ゴールから考える授業づくり**」を実践していくことが大切です。

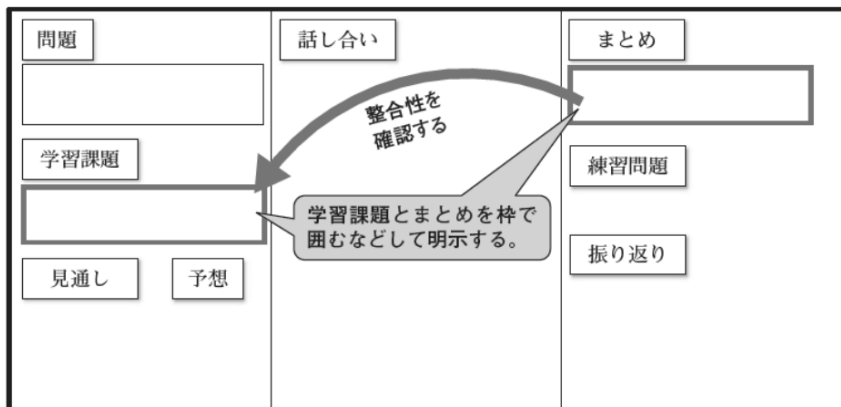
(1) 基本的な授業の流れの例（算数・数学の例）

本時の目標 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○できる。（評価の観点）

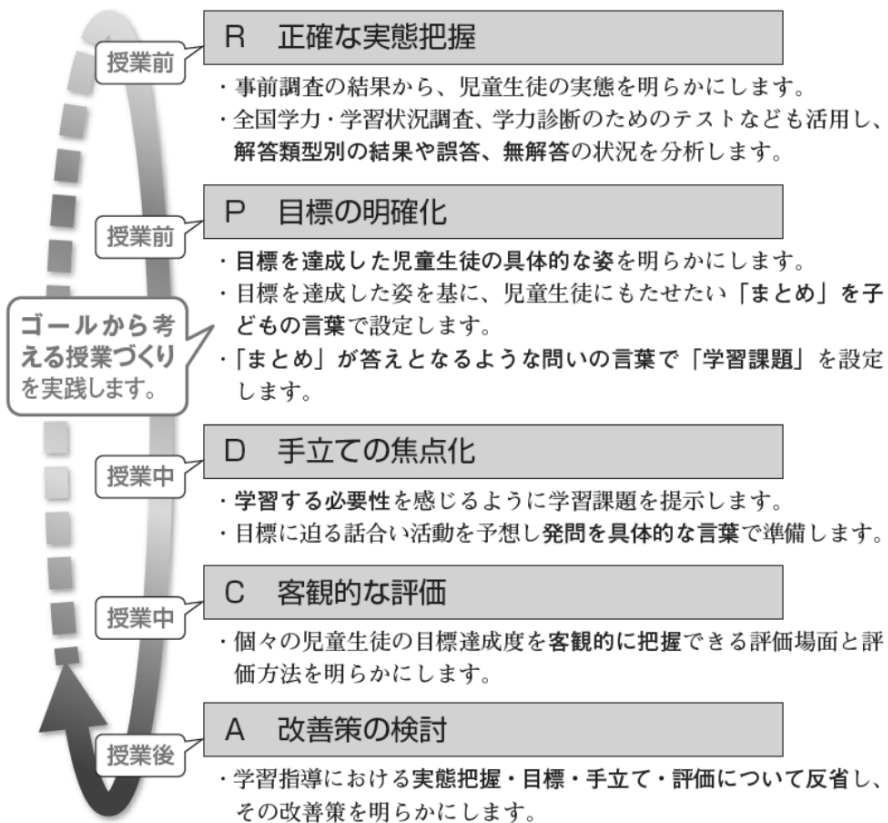
| | 学習内容・活動 | 指導上の留意点、評価 |
|------------|---|--|
| 〈導入〉 ○分 | <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習問題を知る。 ○問題解決のための見通しを立てる。 ○本時の学習課題をつかむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標と実態を踏まえ、児童生徒の学習意欲を喚起させる素材を提示したり、場面設定を工夫したりする。 ・問題の解決方法について既習事項を基に見通しを立てたり、結果を予想したりさせる。 ・児童生徒から出たキーワードや考え方を基にして、本時に解決すべきことを児童生徒の視点で学習課題としてまとめる。 |
| 〈展開〉 ○分 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を解決する。 ・個人で課題を解決する。 ・個々の考えを基に、課題解決に向けて話し合う。 <p>時間の見通しをもって授業を進め、時間内に目標が達成できるようにする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のつまずき等を予想し、一人一人に応じた支援を準備する。 ・目標に迫る話し合い活動を予想し、必要な発問を具体的に準備する。 <p>(教師) 「○○○○○○○○」 (児童生徒) 「△△△△△△△△」 (教師) 「○○○○○○○○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の活動時間を多く取り入れる。 |
| 〈終末〉 ○分 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめを行う。 ○適用問題、評価問題等に取り組む。 <p>評価の手段が（ワークシート）であれば、目標を達成したワークシートの記述を具体的に記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習を振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒自身の言葉を基に、学習課題に正対したまとめを行う。 ・評価の観点に応じた適用問題、評価問題等に取り組ませる。 <p>(評) ○○○できる。（評価の観点、手段）</p> <p>【目標を達成した児童生徒の姿】 ○○○○○○○○○○○○○○○○</p> <p>本時の目標と評価が一致する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できていない児童生徒に対しては、補充指導を行う。 ・適用問題、既習事項も含めて学習を振り返り、学習の深まり・高まりが実感できるようにする。 |

整合性を確認する

(2) 基本的な板書の例 (日立の板書の基本とします。)



(3) 指導と評価の一体化 (授業の質を高めるためのRPDCAサイクル)



V 新学習指導要領全面実施に向けて

1 私の授業 ブラッシュアップ

これからの時代に求められる資質・能力(三つの柱)が偏りなく実現されるよう主体的・対話的で深い学びの視点から授業の質を高めましょう!
(P42参照)

主体的な学び

人は、問いをもつと思考が始まる

- 子どもたちは、学習課題(問題)に興味をもっていますか。
- 子どもたちは、この授業で何をするか(何を解決するか)分かっていますか。
- 子どもたちは、学習の見通しを立てようとしていますか。
- 子どもたちは、学習したことを振り返って、自分の言葉で分かったことを伝えたり、書いたりしていますか。



対話的な学び

教えすぎからの脱却

- 一部の子どもと先生の対話ではなく、全ての子どもたちが対話によって、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりして、課題を解決していますか。(インプットとアウトプットのバランス)
- 教師の発問で、ノートや黒板を見て確認したり、自分の考えをもう一度振り返って考えたり、全ての子どもたちが授業に参加していますか。(例えば、子どもの発言に対し、「～さんの考えの続きが分かりますか」とつないだり、「～さんの考えをとり同士で説明し合しましょう」等、子ども同士のやりとりを促したりする教師のコーディネート)
- 子どもたちは、グループやペア活動の目的(何を話し合うのか)を理解して活動していますか。



深い学び

本質的な発問をどう考えていくか

- 子どもたちは、各教科の「見方・考え方」を働かせて課題解決をしていますか。
- 子どもたちは、自分の考えが寛容したり新しいことに気が付いたりしたことを友達と共有したり、話し合った後、自分の考えを見直して表現し直したり、誤答を生かして課題解決をしたりしていますか。(教師が教える場面と子ども達が思考・判断・表現させる場面を効果的に取り入れます。)
- 子どもたちは、もっと知りたいこと、もっと学びたいことが授業を通して生まれていますか。

※1回1回の授業ですべての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で実現を図っていくものである。